

令和5年11月25日

270号

# 北の療育

- 2つの北療祭を開催
- ワークセンターぴぼろ開設20周年・  
新町あすなる事業統合10周年記念式典を挙行

## ● 巻頭随想

・真冬のアイスは美味しいか? ————— 原 誠之助 — 1

## ● ワークセンターびぼろ開設20周年・新町あすなろ事業統合10周年記念式典を行いました!

————— 浦野 紘史 — 3

## ● 第49回北療祭を開催して

・明るく楽しく、みんなの笑顔はじける北療祭 ————— 姉帯さとみ — 7

## ● 第21回美幌北療祭を開催して

・咲~未来へつなぐ 花咲く道を~ ————— 加藤 恵 — 11

## ● グラビア 第21回美幌北療祭/第49回北療祭/鷹栖神社のお神輿来園 — 14



## ● サンルーム・夏から秋の療育活動

・思い出いっぱいの療育活動 ————— 北海道療育園 — 小原 桜朋 — 19

・みんなで楽しんだ療育活動・花火・北療祭! — 美幌療育病院 — 合田 政哉 — 21

## ● 滝川通園事業所「たんぽぽ通信」

・楽しい活動がいっぱい! ————— 本庄 美希 — 23

## ■ ワークセンターびぼろ

### ● びぼろだより

・療育病院「花火大会」・畑・花壇整備「草取り」・甘納豆 他 — 浦野 紘史 — 25

### ● あすなろ通信

・美幌神社祭り・20周年記念式典に向けて 他 ————— 内田 久勝 — 27

## ● らせん

・地域・在宅チーム~心身障害児(者)療育等支援施設事業編~  
————— 吉田 雅紀 — 29

## ● つつじの里だより

・夏から秋の活動紹介 — 宮島 稜/石井はるか/松井友香/大津千恵 — 31

## ● みち

・第60回重症心身障害児(者)を守る全国大会に参加して — 齋藤 忠義 — 35  
特定非営利活動法人 とらいあんぐる事務局通信

・久々の全国大会の開催・それに参加して ————— 金澤 明菜 — 38  
美幌療育病院父母の会事務局通信

・入所者の数は減らせない ————— 植村 規 — 40  
つつじの里利用者と歩む家族の会事務局通信

## ● ご厚意ありがとうございます

・寄付金一覧・物品寄贈一覧 他 ————— 43

・職員異動一覧 ————— 44

## インフォメーション

・作業療法作品の紹介「ハートのフラワーアレンジメント」/  
第一療育課 粟屋喜信さん、山本裕美さん、第二療育課 高瀬繁男さん、  
第三療育課 石井明美さん、第六療育課 大橋清子さん ————— 13

・鷹栖神社のお神輿が当園を渡御! ————— 18

・看護師さん募集! — 笑顔・いのちの輝き・かかわること 看護の原点がここにあります! —  
一緒に働いてみませんか ————— 28

・=コラム=「帰る人」である私/蒔田明嗣 ————— 33

・ブックスタンド「『よく見る人』と『よく聴く人』」  
— 共生のためのコミュニケーション法 — 広瀬浩二郎 相良啓子著 (岩波ジュニア新書) — 41

・物故園児者慰霊式を挙行/旭川市彫刻美術館のボランティアの方が療育園の彫刻を見学 — 45



# 真冬のアイスは美味しいか？

原 誠之助

今年の北海道の夏は例年にも増してとても暑かった。これは私個人の印象ではない。先日、根室を訪れた際に地元の人からも同じ言葉を聞いたからだ。住んだことはないが根室の夏は例年一週間足らずだと聞いている。こんなことを書くとは北海道以外の地域に住んでいる人には鼻で笑われるだろう。数年前から日本の夏の暑さは生命を脅かすほどだ。気象庁のホームページを見ると私が故郷の岡山から大学進学で旭川に転居した一九八四年八月の平均気温は十二・四度（最高三十五・四度、最低十・六度）であった。もちろん下宿にエアコンはなく、バイクで郊外を走ると肌寒かったと記憶している。家族を連れて再び旭川に舞い戻った二〇〇五年八月の平均気温は二十二・三度（最高三十二・九度、最低十一・四度）と大きな変化はない。借家にエアコンはなかったが、夜は窓を開けると気持ちよく休めた。二〇二三年はどうであろう。八月の平均気温は二十四・六度（最高三十五・五度、最低十六・二度）と約二十年で二・五度の上昇であり、この数年で顕著な印象である。北海道でも多くの家にはエアコンがあり、車にも標準装備されている。エアコンの無い学校では暑さのため休校にもなった。

これは決して国内のみの状況ではない。世界気象機関とE.U.の気象情報機関であるコペルニクス気候変動サービスは二〇二三年六月から八月の世界の平均気温が観測史上最も高くなったと発表した。これを受けて国連のグテーレス事務総長は「地球全体にとっての大惨事であり、人類の責任であることは明白だ。地球温暖化の時代は終わり地球沸騰の時代が訪れた」と強い危機感を表した。やはり「人新世（ヒトあるいはジンシンセイ）」の時代がやってきたのだ。地質学的に今現在、人類が活動しているのが最も新しい「完新世」時代である。約二〇〇年前に始まった産業革命以降に人類がもたらした戦争や森林破壊による地球環境への影響が、完新世をもちや人類中心の人新世に変えてしまったのである。北の療育二二三号の巻頭言で故江口武理事長も「地球の賞味期限」と題し、人間の傲慢さは地球の

賞味期限を縮めている。地球に寄生しているにすぎない我々は今一度、謙虚に立ち返らねばならない。傲慢な人間を受け入れてくれる次の寄生先の星などありはしないと、皮肉を込めて述べておられた。

これを書いていて真っ先に頭に思い浮かぶのは私たち世代が五十年前にテレビ、映画で夢中になったアニメ「宇宙戦艦ヤマト」だ。地球は異星のガミラス帝国からの攻撃により生物が生息できないまでに破壊され、その表面は赤茶けた土だけで海も植物も見られない。毎週番組は「人類絶滅まで、あとXXXX日」のテロップとともに、「ヤマトよ行け、地球と人類の未来を懸けて」のナレーションで終わる。当時はあくまでもSFであったが、今や近未来に起こりうる話だ。デスラー（ガミラス帝国総統）が来なくても、今のままでは我々は化石燃料を燃やし温室効果ガスを出し、地球を賞味期限が来るまで破壊し続けるであろう。コスモクリーナー（環境浄化装置）の開発は破壊のスピードに追いつけず、イस्कンダル星人がいたとしても傲慢な人類には提供すらしてくれない。人新世の時代は地球の消費期限とともに人類絶滅で終焉する。

しかし、デイストピアまっしぐらでは癪にさわる。少しは抵抗したく、昨今の電気代高騰対策もあり、美幌療育病院では太陽光パネル設置により来春から自家発電の稼働を目指している。微々たるものだが化石燃料消費削減の一助になればと期待する。環境省は脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動を「デコ活（デカボ+エコ）」と称し、家庭での脱炭素生活を推し進めている。衣・クールビズ・ウォームビズ、サステナブルファッション。住・ごみはできるだけ減らし、資源として分別・再利用。宅配便は一度で受け取る。食・地元産で旬のものを選ぶ。移・できるだけ公共交通・自転車・徒歩で移動。買・はかり売りなどで必要な分だけ買う。などは個人でも実践可能な内容だ。真冬に化石燃料をガンガンに燃やして、薄着でアイスを食べる道産子のライフスタイルも見直す時期に来ている。

●はら・せいのおすけ

社会福祉法人北海道療育園・理事  
美幌療育病院・院長・医師